



会 長 挨 拶

静岡県産業教育振興会
会 長 酒井 公夫

静岡県産業教育振興会会長を務めております静岡県商工会議所連合会会長の酒井でございます。「平成 30 年度 定期総会」の開会に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

本日は、静岡県教育委員会の鈴木一吉教育部長様をはじめ、会員の皆様方におかれましては、ご多用のところ、またご遠方からご出席を賜り、本会が盛大に開催されますことを心からお礼申し上げます。

また、日ごろから皆様方には、本会の活動につきまして、それぞれのお立場から深い御理解と御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、我が国の経済は、直近(30年6月)の内閣府の月例経済報告においても「景気は穏やかに回復している」としているとおおり、回復基調が続いており、景気拡大の長さとしては、高度成長期の「いざなぎ景気」を超えて戦後2番目の長さになるほど、安定して推移しています。

一方、有効求人倍率は前月を0.02ポイント上回る1.70倍となり、26年4か月ぶりに1.7倍台となるなど、地域企業にとって、業種を問わず人手不足が深刻な課題となっています。また静岡県の生産年齢人口は2010年には236万人でしたが、2020年には207万人、2040年には159万人に減少するとの予測もあり、企業の人材確保の強化や、女性や高齢者、外国人の活用はもとより、「働き方改革」とITの活用等による「生産性の向上」に同時に取り組んでいくことが求められています。

加えて、近年、中小・小規模企業の減少が続いております。この5年間で40万社が減少しており、さらに今後5年間で団塊の世代の経営者30万人が70歳を迎える「大事業継承時代」の到来を控え、我が国の経済や雇用に与える影響が懸念されております。

こうしたなか、私たち産業界と教育界がこれまで以上に緊密な関係を構築して、産業教育の意義と役割を広くアピールするとともに、故郷を慈しみ、将来、静岡県で活躍するという高い志を持った人材を数多く輩出できる環境づくりに官民一体となって取り組んでいくことが求められております。

こうした状況をご賢察いただき、静岡県の産業教育の更なる充実・発展のため、今後とも皆さま方のご支援とご協力を賜りますよう、この場をお借りして改めてお願い申し上げます。

本日の総会におきましては、平成29年度の事業報告・決算ならびに平成30年度の事業計画・収支予算等についてお諮りいたします。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。私からの御挨拶とさせていただきます。